

[成果情報名]イノシシ被害に対する防除法

[要約]イノシシの農地への侵入を防除するため、CD と有刺鉄線を組合わせた有刺 CD を作製し、これを使って餌づけ場所を中心に柵を設けた。イノシシは 8 日間、柵内に侵入しなかった。有刺 CD の防除効果についてはさらに検討が必要であると考えられる。

[キーワード]イノシシ、防除、有刺 CD

[担当]畜産試験場 生産環境部

[連絡先]電話 0739 - 55-2430

[部会名]畜産部会

[分類]研究

[背景・ねらい]

イノシシによる農作物への被害は、本県において農業を巡る深刻な問題の一つになっている。この被害に対して様々な防除法が行われてきたが、それらは大別すると二つに分けられる。一つは侵襲なしの防除法と呼ばれるもので、イノシシに痛みを与えないでこれを撃退する方法である。もう一つは侵襲ありの防除法で、イノシシに痛みを与え農地への侵入を阻止するものである。当試験場ではこれまでにいくつかの防除法が試みられてきた。このうち、比較的防除効果が見られたのが CD を用いた防除法と自家製有刺ロープを用いたものであり、それぞれ侵襲なしと侵襲ありの防除法に該当する (図 1、2)。今回、当試験場では上記二つの防除法を組合わせて有刺 CD を作製し、餌づけ場所を中心に有刺 CD による柵を設け、この中へのイノシシの侵入を観察した。

[成果の内容・特徴]

1. 直径 2 mm の市販の針金を両端鋭利に 10 cm の長さに切出し、これを CD に垂直に突き刺し有刺 CD を作製した (図 3)。園芸用支柱 4 本を地面に突き立てた。支柱の配置は、突き立てた点が一辺 1.7m の正方形の頂点とした。一つの支柱間に 5 枚の有刺 CD を地上 45cm に釣り糸を使って固定した (有刺 CD の間隔 : 30cm。支柱と最寄りの有刺 CD の間隔 : 10cm)。同様にして、別の 5 枚を地上 25cm に固定した (図 4)。試験開始日から 70 日間は、園芸用支柱のみを設置し、支柱で囲われた地面のほぼ中心部に毎日餌を置いた。餌を置く時間は、通常イノシシの出没する前の 16時30分から 17時の間とした。試験開始から 71 日目より有刺 CD で囲われた場所をビデオカメラで撮影し、ここに侵入した動物種の確認を行った。撮影時間帯は 16時30分から翌日の 8時30分までとした。試験開始から 117 日目 (録画開始より 47 日目) より有刺 CD を取付け、前と同様に餌を置いた。イノシシが柵の中に侵入して来るまでこの条件を保った (図 5)。

1. 録画開始より有刺 CD を設置するまでの 46 日間、イノシシが毎日餌を食べにきたことを確認できた。有刺 CD を使った結果、8 日間イノシシが侵入しなかった。

[成果の活用面・留意点]

1. 防除法の効果は、防除法そのものだけでなく、その他の要因が関係すると考えられる。推測される要因としては、第一に跳躍力のような個体の特性が挙げられる。第二は個体が耕作地に出没するようになってからの期間である。第三には耕作地に放棄される野菜などのあるなしが挙げられる。第四は耕作地周囲の地形である。

今回の試験を振り返ると、第一に当試験場は、ほぼ周囲を山地に囲まれており、普段からイノシシなどの野生動物が出没していた。第二に本試験で用いた柵は山林に近いところに設置した。第三に 116 日間に渡り有刺 CD がいない状態で一定の場所に餌を置いた。これら

の条件は、イノシシにとって容易に近づくことができ、かつ安全で餌を確実に摂取することのできる場所を与えた可能性がある。このことが有刺CDの防除効果に影響を及ぼしたことが考えられる。

有刺 CD は、先に試験した CD や自家製有刺鉄線に比べて、その防除効果は低い可能性がある。しかし、先に述べたように防除法の効果に、防除法そのものだけでなくその他の要因も関係している可能性があることから、有刺CDの防除効果については、設置場所を変更するなど再検討の必要があると考えられる。

[具体的データ]

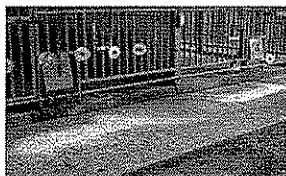


図 1. CD を用いた防除法

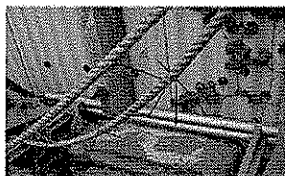


図 2. 自家製有刺ロープ



図 3. 有刺 CD

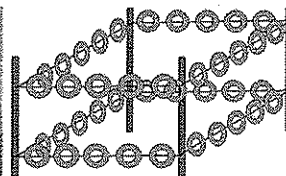


図 4. 有刺 CD を使った柵

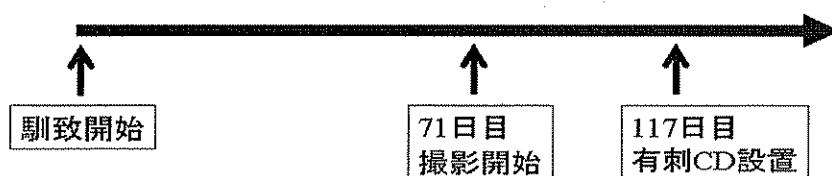


図 5. 試験のスケジュール

[その他]

研究課題名：イノシシ被害に対する防除法

予算区分：県単

研究期間：平成 18 年度

研究担当者：齊藤正二

発表論文等：平成 18 年度和歌山県畜産技術業績発表会口頭発表